



# わたしがわたしを取り戻す場 Villa CAMPO。

船戸 博子

イタリア語で「庭のある別荘」の意味を持ち、私たちのコンセプトのひとつである「漢方」をかけた Villa CAMPO。

療養にいらっしゃる方から、リトリート（日常から離れた場所で、心身をリラックスさせるためにゆっくり過ごす旅のスタイル）に参加される方など、その滞在理由はさまざまです。

今回は、関東から編集ライターの新崎典子さんが漢方診断を受けに来てくださったので、その滞在記をご紹介します。



## とことん自分自身と向き合った二泊三日の滞在記。

新崎 典子

船戸クリニック（以下フナクリ）のウワサは、いろいろなところから耳にしている、いつか何かの機会に訪ねてみたいと思っていました。

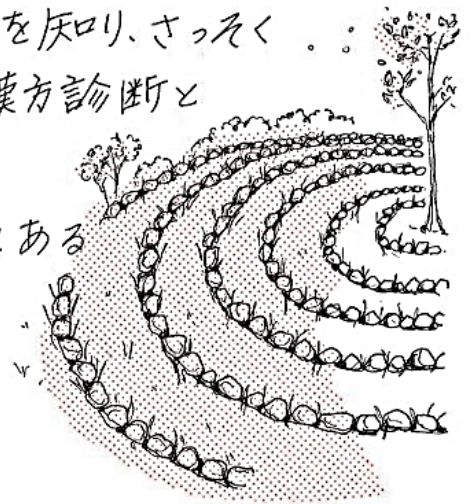
と、いいますのも、私は本や雑誌の編集ライターをしていて、バと身体  
の健康、食と農、旅、自然の摂理に沿ったライフスタイル、  
子どもの遊びと造形、そして落語などをテーマに  
本を作ったり執筆をしているため、ホリスティックな  
医療を実践しているフナクリへの興味が尽き  
なかったわけです。



そんな折、フナクリに宿泊施設ができたことを仄知り、さっそく  
Villa CAMPOに予約を入れ、博子先生の漢方診断と  
漢方薬草蒸しを受けることにしました。

ホームページを見て気になったのは、庭にある  
「ダマヌールサーキット」。

否が応でも期待に胸が高まります。



念願の滞在初日。統合医療センターの受付に向かうと、羊やら鶏  
やら猫やら犬やらが出迎えてくれるではないですか!

これだけで「もう最高!」と、私の中のボルテージが上がります。

滞在中のスケジュールや食事の説明をしていただき、  
さっそく部屋へと向かいます。白い花が咲き始めた  
山いあごが茂るアーチをくぐり、右手には猫型アース  
オーブンがある作業小屋、向を迎えているサヤエンドウ、  
いちご、ハーブなどの爽みがる畑、そして庭の中心  
には石で描かれた大きな螺旋のダマヌールサーキットが!



その周囲を囲むように、まだ幼い果樹や花などが木植えられて  
います。幹線道路が近くに通っているのに、不思議と車の音が  
気になりません。

何か結界、でも張られているのでしょうか? すべてが澄んでいて、  
クリアな感じを受けました。

このバエ也よい気が流れる庭に面して、南プロバンスのような雰囲気  
のあるゲストルームが建っています。

今回、私は「ティートウリー」の部屋のキーを渡されました。

扉を開けて部屋に入ると、瞬時に身体が緩むのを感じます。



天井が高く、リビングと寝室が緩やかに区切られた  
オープンな空間、素足になりたくなるフローリング、  
ほんのりとアロマの香り、シンプルだけれど質の  
良い調度品……。



ミニキッチンには、フレッシュのハーブと小さなおやつ、  
枕元にはハーブピローにくまのぬいぐるみ。

部屋にあるひとつひとつのものが、「これでいいや」ではなく、  
「これだから使ってほしい」というゲストへの思いが込められている  
ように感じました。

その日は、時間を気にすることなくゆっくりとお風呂に入り、ハーブティ  
を飲んで気がつけば夢の中……。

夕々に「寝落ちする」という快感を得ることができました。



翌日は、博子先生の漢方診断と漢方薬草蒸しです。

日頃からパソコンを使う仕事のためか、目の疲れが気になります。  
また、幸いにも更年期障害といわれるような症状はないのですが、  
閉経後の体重増加をなんとかしたい(特にお腹周りの贅肉・  
苦笑)と訴えたところ、博子先生にズバッとひとこと。

「自分の身体の変化を楽しんで。幸せに死ぬための  
準備をそろそろ始めましょうね。そして、次の世代  
へといのちをつないでいくのよ。病気をバツ配  
するほど」の体重や体脂肪ではありません。

おいしいものを食べて、お腹タプタプいわせながら、  
何が悪いの？ って言っていれば「いいのよ(笑)」。



漢方薬草を煮出した蒸気で下半身と全身を蒸し、膣と肛門、鼻の粘膜から漢方薬草エキスを吸収させる「漢方薬草蒸し」を受けながら、「幸せに死ぬための準備」に思いを巡らせていると、今回の滞在での私にとってのキーワードは「女性性、だなと気づきました。

ダマヌールサーキットを回っているときには「調整、統合、解放」というインスピレーションを得ました。

また、デリケートゾーン専用のソープを使ったのも初めての経験で、とても大切な部分なのになぜ今までケアを疎かにしていたのだろうと反省。

漢方薬草蒸しでは、舌が尻でも膣を感じざるを得ません。



そういえば、ティートウリーの部屋にある白樺の木は「女性性」や「母性」を象徴していると、この部屋のストーリーを記したファイルに書いてあったっけ……。

Villa CAMPO の案内にある「ありのままを生きる」という言葉を胸に、「私らしく生きるとは、どういうことなのか？」と問いかけながら、自分とじっくり向き合う時間を過ごす滞在となりました。

そろそろ、フナクリ食堂でいただく、朝昼晩の「おくすりなごはん」が美味しかったのは言うまでもありません。

五臓六腑に染み渡るとはまさにこのことだなと、

お腹をタフタフさせながら、思わず笑みがこぼれるのでした(笑)。

